
■ JXホールディングス(5020) 2012年度第2四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 11月5日(月)16:00-17:10
2. 出席者数 : 155名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 石油精製販売事業について、マージンの前提は？

- A. 10月までは足元の状況を織り込んでいる。11月以降の見方は8月公表から変更していない。10月はやや低い水準であったが、定期修理も含めていくつかの製油所が停止していること、在庫水準も高くないことを考えると、今後もこの水準が継続するとは思わない。

Q. 水島製油所B工場の問題を受けて他事業所のチェックをしたと思うが、結果はどうだったのか？

- A. 8～9月にかけて全国の製油所、製造所のチェックを行った。結果として水島製油所B工場のような虚偽の申告はなかったが、一部事業所において設備の補修工事に関する届出漏れ等が確認された。結果についてはそれぞれの事業所より監督官庁に報告し、指導を仰いだ上で、適切な対応を実施している。

Q. 石油精製販売事業は2Qの製品マージンの良化により、上期の在庫影響除き経常利益が8月公表比で130～140億円上振れている。にもかかわらず、通期見通しを引き下げた背景は何か？

- A. 原油価格の前提を引き上げたことによる燃費の悪化と一部製品でのタイムラグの発生、および前回織り込んでいなかった水島Bの停止影響を一定の前提を置いて織り込んだ。さらに、マージンについても10月の状況を織り込んでおり、その分がマイナス要因として含まれている。

Q. 開発中のカセロネス鉱山の進捗状況は。収益貢献のイメージに変化はないか？

- A. カセロネスの開発は順調に進んでおり、進捗率は70%を超えている。初期投資30億ドルのうち、20億ドルは既に投資済み。予定通り2013年年初からS X-EW法による電気銅が、2013年秋口より銅精鉱が生産開始となる見通し。足元360セント/ポンド程度の銅価格であれば、4～5億ドルの収益貢献が見込めると考えており、特段収益貢献のイメージに変更はない。

Q. 室蘭製油所を石化工場にするとのことだが、具体的にはどのような変化があるのか？

- A. 装置として止めるのは常圧蒸留装置、減圧脱硫装置等の一次装置が中心である。二次装置（接触分解装置、水素化分解装置等）はそのまま有効活用し、また、一部を改造の上パラキシレン原料や、樹脂原料であるキュメン等の石油化学品を生産していく。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化、

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。